

参加していただきました。

また当日は石沢先生が、3月1日大阪で行われた第11回松下幸之助花の万博記念賞奨励賞を受賞され、記念盾の披露があるなど、記憶に残るお楽しみ会でした。

あと思い出の山行は、みんなを勇気づけていただいた、1999年の杣差岳強化合宿（76才？登頂じねんじょ記録）や、津南町巨木調査などです。

杣差岳山頂での別れは今でも脳裏に残ります。小屋にもう一泊のため、高圧さんと二人で残られ、下る本隊一行をいつまでも手を振って見送っていただいたのですが、小生も二度と来ないであろうこの山を去りがたく、何度も振り返りましたが、先生は下る皆さんにずっと手を振っていらっしやいました。

津南町調査は何回かありましたが、先生は1992年頃は最後の資料まとめに精をだしてられ、巨木については、情報があれば何回でも補充調査をされ、じねんじょ調査隊解散後も調査されたことがありました。そんな折ちょうど退職して自由な身となっていたので、二日間同行する機会がありました。初日は津南町の中沢英正氏の案内で廻り、二日目は二人だけになりました。

小生の資料整理がいいかげんなので、今ではどこを調査したのか記憶が定かではありませんが、穴藤のメグスリノキは、急な登りを上ったこと、あまりきついで次回来るときは上部から下がる道はないか見に行ったこと、後で分かったことだが、二人とも紅葉の写真を撮りにそれぞれ別の日に行き、先生は上から下りたと云われたし、小生は下から登ったことなどあった。

またチョウセンゴヨウの大きな木が、駒返の民家の庭にあるとの情報で、訪ねたが見あたらないと思ったら枯れて伐採されてしまっていたなど、情報は必ず確認するという調査に対する執念やその姿勢に感心させられたものでした。

巨木調査の方法なども教えていただき、そのとき頂いた正接三角関数表は、1994年～1996年の旧三島町巨木調査に活用させていただきました。

調査内容の記憶はあまりないのに、泊まった夜のことは印象に残っています。先生の車は、ベット、山道具、食料庫のあるフル装備車だし、小生は軽トラック幌付きでしたのでどこでもすぐ野営できるので、適当の場所を探しながらどんどん山奥へ入ったが、熊が出そうで気持ちが悪くなり、人家の見えるところまで下りて炊飯しました。

ご飯とみそ汁だけ作り、あとは先生が食料庫からワインや缶詰を持ってこれ、ゆっくりした夜を過ごしました。

先生は酒はあまりお強くないので、小生がおおかた飲んだのではないかとされます。

つまみが無くなると、車の中を探して「こんなものがあった」と戻られる、ちょっと前かがみ姿勢の笑顔が目に見えます。

先生の車は「ドラえもん」のポケットのようだと感心しました。ながい山経験のいろんな知恵とアイデアが詰まった装備だと思いました。

いろんな話をしたなかで、牧野富太郎さんのことになり、小生が就職試験の二次面接時に尊敬する人とは聞かれ、1年前の1951年に文化功労者受賞者で話題となっていた牧野さんをあげたこと、東京谷中の墓地へ牧野博士ご夫妻の墓参に行ったことなどはなし、また先生は出征のとき、日の丸の寄せ書きのなかに牧野富太郎さんから書いてもらったのがあったと云われ、「すごい、一目見たい」と、先生にお宝拝見をお願いをしたようで、あとで先生から「どうも処分してしまったらしく、見つからない」と聞き、写真に撮れず残念に思ったことなど懐かしく思い出されます。

先生の写真の腕はプロ並みで、県展写真の部で何回か拝見したことがあり、なかでも海外旅行で撮影された砂漠植物の「奇想天外」には驚き、よく記憶しています。

すばらしい写真、ハーモニカ、みんな懐かしい。

いろいろ親切に教えて下さったり、たくさん思い出も有り難うございました。

尾崎富衛先生ありがとうございました

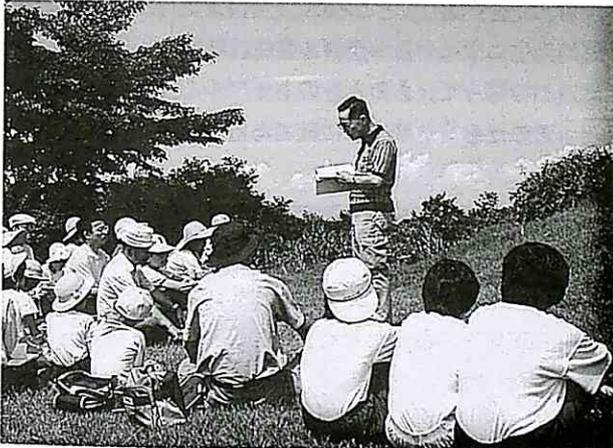
西山邦夫

尾崎先生に初めてお目にかかったのは生物教育研究会の発会を兼ねた自然観察会の時でした。まだ雪のわずかに残る昭和30年代の春、東蒲原郡の三川村でありました。当時、三川温泉の山奥には新潟大学農学部の演習林があり、国鉄磐越西線の三川駅からその事務所までの田んぼ道や曲がりくねった山道が観察経路でした。池上義信先生、平田幸治先生、丸山幸平先生、吉川純幹先生、松田一郎先生、小林敬先生や村上市の工藤先生など著名な先生方が参加されておりました。観察ポイントでは、その分野を専門とする先生が説明に当たり、岩石、植物群落、スゲ類など沢山のお話を頂きました。

尾崎先生にはその後、じねんじょ会を通じ御指導を頂いて来ました。環境庁や県庁の依頼による植物調査では県内のあっちの山、こっちの湿原などいろんな所にでかけました。先生は御用意の良い方で、愛車にはいざという時の準備が常にしてあり、食料、水、テント、懐中電灯など即座に提供して下さいました。私が長岡市立科学博物館に学芸員として勤務していたおりは、野外観察会、講演会や標本写真展示会など多くの博物館行事で講師として御指導を頂きました。ここに掲載した写真は「親子の夏の植物観察会」の時のものです。夏休みの自由研究のテーマの設定、観察の仕方、まとめ方、標本の作り方などを学習するもの

でした。丁寧な、分かりやすい、熱心な御指導は参加者の全ての方々に好評でした。また、全県下の小中高の児童生徒を対象とし、50数年間も続いている「植物、昆虫、その他の動物標本展示会」では、長年にわたり審査員をしていただきました。この行事からは沢山の研究者を輩出し、全国的な博物館の行事として注目されております。ある年の岩手県二戸市でのエピソードを御紹介いたします。全国規模で開催されている巨樹巨木林の会で尾崎先生と基調講演を聞いておりました。演者の若い先生には昔「標本展示会」に良く出品していた高校生の面影があるのです。その夜の懇親会のおり、演者の先生にお尋ねしましたらやはり御本人でした。某大学の教授で、モミジの尾崎先生はどうされておられますか。とのお話が出ました。時を経ても尾崎先生の御指導が印象的だったのでしょうか。その夜は東北の地で尾崎先生を囲み楽しい時を過ごしました。その後、巨樹巨木林の会には奥様も御一緒に岩手県を始め、山形県、宮城県、奈良県、長崎県へ出かけ各地域を代表する巨樹や植生を見て回りました。また、尾崎先生は写真の分野では県展作家でもあり、行く先々で素晴らしい写真を撮影されました。マダガスカル島のバブバブの木の作品は県展に入賞したものであり、目に浮かびます。インドの片田舎の港、漁船のある風景も入賞したものでした。

尾崎先生はいつでも私どものそばに居られ、すぐお会い出来るものと考えておりました。しかし、もうどこに行っ



ても、いくらさがしても先生にはお会いできないのです。もっといろんな面で御指導を頂いていれば良かったと思います。

尾崎先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

尾崎先生の思いで

鷲尾 和行

出 会 い

1975年(昭和50年)、新潟南高校の木造の生物研究室。放課後、池上先生と植物標本を見ている多くの人たち。当時、植物に興味のなかった高校生の私がよく見かけた風景だった。その中に尾崎先生がいた。尾崎先生は、親しげに私たち生物部員によく声をかけて下さっていた。

しかし、その数年後、まさか自分が尾崎先生と同じグループ「じねんじょ会」に入会するとは、当時の私には考えられないことであった。

大学3年の頃、池上先生のお供で、佐潟の調査会にじねんじょ会員として初めて参加。その時、尾崎先生には「なに?今まで(じねんじょに)入っていないかったのか?」と、冗談っぽく言われた。尾崎先生の歓迎の言葉として今でも鮮明に覚えている

段 ボ ー ル

1983年(昭和58年)秋、「植物資料室」開設の準備を手伝わせていただいた。尾崎先生からは、池上先生の標本を運ぶ段ボール箱をできるだけたくさん集めてほしいと言われた。

運搬するのは、大量の標本。しかも、運搬時に標本が破損してはならない。標本の大きさにぴったりの箱が必要であった。

しかし、特別注文でない限り、そんな箱はなかなか見つからなかった。しかも、大量に。尾崎先生と実際に標本を箱に入れて確かめた。その結果、「なす」「じゃがいも」「ピーマン」の箱はぴったり、「りんご」や「バナナ」は少し大きいが運搬には支障がないだろうということがわかった。これらを中心に集めることになった。

青果市場やスーパーマーケットをいろいろ回った。大きさがちょうどよく、しかも大量に集めるのは結構苦労した。

ある時、尾崎先生から「俺は今日用事があって(段ボールを)集めに行けないから、君、俺の車で行ってこないか?」と言われた。当時まだ20歳そこそこの私には、他人の車を運転することははばかられたが、先生がどうしてもというので引き受けた。尾崎先生の軽ワゴンの荷台いっば